



ホームにはレトロな跨線橋が残っている



狛犬の爪が赤く塗られている

きすき
木次線ストロール①⑨

しんじ
宍道駅

「おしゃれな来待石の狛犬と きまちいし 広大な干拓地の草原」

4月6日月曜日、先月号の絶景の旅⑨で雲南市の桜の名所を訪ねた翌日である。松江市内の宿泊先を午前8時過ぎに車で出発、9時には南宍道駅に到着していた。金山下公民館の敷地に駐車。広場の桜並木は満開だった。

早めに着いてしまったので、ホームの待合室のベンチで読書の時間。文庫本は旅の親友である。ウグイスの鳴き声が聞こえていた。10時38分発の宍道行ききの列車に乗って驚いた。座席がほとんど埋まっていて、立っている人もかなりいる。高校生ぐらいの若者が多い。島根県の公立高校は8日が始業式、まだ春休みなのだ。旅行者もけっこういるので、青春18きっぷ（3月1日～4月10日）の

利用者かもしれない。山間の金山川と並走するように下った列車は、やがて国道54号線と合流して市街地に入ったが、沿線の建物に廃屋が目立つ。過疎化による地方都市の衰退は、全国規模の問題なのだろうが、廃屋好きのわたしには、その景色も魅力である。6分程で宍道駅に到着。宍道駅は山陰本線の駅として明治42年（1909年）に開設された。簸上鉄道線（後の木次線）の接続駅になったのは大正5年。ホームが2つ、乗り場が3番線まであつて、原則として1番線が山陰本線の松

江方面で、2番線が出雲市方面。木次線が3番で（送電の）架線が張られていない。つまり、気動車（ディーゼル動車）専用の乗り場なのである。

レトロな木造の跨線橋の階段を登って、駅舎のある1番ホームに降りた。備後庄原駅の跨線橋を思い浮かべた。昔ながらの跨線橋は、今では稀少である。改札で整理券を提示して運賃を精算、190円。改札を出る客は数人で、山陰本線への乗り換え客がほとんどなのだろう。

駅舎は平成29年（2017年）に改修されて、モダンな雰囲気。待合室のベンチにもかなりの人が坐っている。出入口の庇の柱に掲げられた「宍道駅」の古い看板、勇壮な墨痕が印象に残った。

駅に隣接する郵便局の前にタヌキの石像がある。帽子を被って、差し上げた右手に乗っているのは伝書鳩だろうか。宍道町内には、こうした来待石製のタヌキの石像が60匹いるという。タヌキは福を呼ぶ縁起の良い動物で、語呂合わせで「他抜き」、他店よりも抜きんでるといふ商売繁盛の願いも込められている。

来待石は、宍道湖の南岸（松江市宍道町の来待地区周辺）で採れる「凝灰質砂岩（ぎょううかいしつさがん）」、1400万年前の火山堆積物が海底に堆積して形成され

発行：どら書房

誌面デザイン: ROUTE183
協賛：九日市愛好会